

■ 白血球の種類と働き

顆粒球	60%	好中球	細菌などの異物を処理し、生体を外敵から防ぐ働きをしています。顆粒球の90%は好中球で、異物に向かう遊走能と異物を取り込んで処理する貪食能があり、顆粒中の酵素や活性酸素により消化、殺菌されます。
		好酸球	顆粒から特殊なたんぱくを放出して、寄生虫やその虫卵を障害したり、喘息や薬物アレルギーなどのアレルギー反応を引き起こします。
		好塩基球	顆粒中にアレルギー反応の原因となるヒスタミン、ヘパリン、ロイコトリエンなどを含んでいるため、好塩基球の表面にある免疫グロブリンEに抗原が結合すると顆粒中からヒスタミンなどが放出されアレルギー反応を引き起こします。
リンパ球	35%	NK細胞	ガン細胞、老化細胞、ウイルス感染細胞などを攻撃し、破壊します。 NK細胞はT細胞と異なり、MHC分子を発現していないガン細胞を直接攻撃し、破壊できます。
		B細胞	B細胞は、ヘルパーT細胞の指示に基づいて抗体を作りますが、この抗体が細菌やウイルスに結合して、無力化したり、マクロファージに捕食されやすくなります。
		T細胞	キラーT細胞、ヘルパーT細胞、サプレッサーT細胞の3タイプがあります。
		NKT細胞	NKT細胞はNK細胞とT細胞の両方の性質を持ったリンパ球です。
単球	5%	単球	単球は白血球の内、5%を占め、アメーバ運動を行い移動することが出来ます。細菌や異物などを細胞内酵素で消化することが出来ます。
		マクロファージ	単球は、組織に移行し(遊走)、マクロファージや樹状細胞などに分化し、体内の異物を取り込んで消化します。
		樹状細胞	樹状細胞は体内に侵入した細菌やウイルス、ガン細胞などの異常な組織をいち早く認識し、抗原をを提示し、ヘルパーT細胞へ伝える役割をします。